

なほ

9月号
vol. 175

おとなの 社会科

特集

第3講 地理と歴史 — 玉出

「もうひとつの世界」
石川河川公園にて撮影



「西成」という地名の「二」

よく知られていることだが、「西成」という地名は奈良時代に遡れるほど古い。平城京への遷都後すぐの713(和銅6)年、元明天皇が『風土記』の編さんとともに「郡郷の名は好字であらわしかつ二字を用うべし」という好字令(諸国郡郷名著好字令)を詔勅した。そのとき、上町台地の稜線を境にして西側を「西成郡」、東側を「東成郡」と命名したのが始まりだとされている。「西成郡」という地名が示す範囲は、現在の西成区よりもはるかに広く、大阪の市街地の谷町線以西はほぼ「西成郡」に含まれていた。西成「区」が誕生したのは1925(大正14)年の大阪市第二次市域拡張のとき。西成郡北部の諸町村が東・西淀川区に編入された一方で、南部の諸町村で「この由緒ある西成の名を

おとなの社会科

第3講 地理と歴史 — 玉出

昔、使った教科書をパラパラめくってみると、あの頃には気づけなかった面白さがみえてみた——そんな経験はないだろうか。学校の教科書は昔と同じではない。だから、大人になってからの学び直しも決してムダではないはず。学校に通ってた頃を思い出して、もう一度、目の前に広がる社会を学び直してみませんか。

残すべし」という配慮があったところである。

ところで元明天皇による好字令以後、日本の地名の多くは漢字二字、それでもできるだけ好ましい意味をもつ字が選ばれ表現されるようになった。もちろん、このルールに当てはまらない地

名も数多くある。ただ、地名が変更される場合、地名の音はそのままに、より好ましい漢字を当てるという操作がしばしば見られる。この現象を「好字化」という。「梅田」の例が有名である。「埋田」という元の地名を、音はそのままに愛でたい意味をもつ

「梅」に変更したのである。

さて、『西成区史』によると、西成郡という地名が生まれた当時、その地域には広大な低湿地帯が広がっていた。海浜または葦の生い茂る湿地帯に点在する漁農村、それが現在の西成区あたりに広がっていた景色であった。こうした低湿地の陸地化が進み、歴史書にもこの付近の地名が出てくるようになるのは、鎌倉時代の頃から。また、別の文献によると、南北朝時代には玉出のあたりに「勝間千軒」と呼ばれる武器製造の拠点ができ、さらに戦国期になると、集落の周囲に幅2m弱の水濠を巡らせ、玉出四ヶ寺(光福寺・普源寺・善照寺・長源寺)を中心とした環濠都市が形成されたという。室町末期から織豊期にかけては、織田氏と石山本願寺の抗争(石山合戦)において、石山本願寺方が同地に砦(勝間砦)を築いている。

こう見てくると、玉出の環濠集落は近世にかけて発展を遂げてきたことがわかる。その環濠は昭和初期まで残っていたというので、現地に行つてその痕跡を探ってみることにした。

環濠の痕跡を求めて

地図を見ると、現在、環濠があったところはいずれも道路になつているので、まずはそこを歩く。何の変哲もない街の路面のアスファルトが夏の熱い光を照らし返す。環濠という「歴史」の断片を求めて目を凝らしてみるのが、なんかさういふものが出てくるような雰囲気ではない気がする。場所の由緒を記す案内板や里程標なども期待してみたのだが…。そういえば、紀州街道のときはとても丁寧に里程標や案内板が掲示されていた。「何や、このちがいは」とまったく身勝手な不満を当たり散らした

くなつたが、むしろあつちのほうに珍しいのかも知れない。もう「歴史」そっちのけで、個人的に気になるモノを写真に収めていく。

半ば諦めていたところ、少し歪な交わり方をした交差点に出くわす。そこから緩やかに蛇行するこの道は、環濠の南辺に相当する。もしかして、この微かな兆候が環濠の存在を偲ばせる唯一の標なのか。

これだけでは寂しいので、個人的に気になつたモノを紹介しておこう。①辻角の地藏堂の上に掲げられた四つの漢字にユーモアを感じ、さらに一方通行の青い標識の配置バランスがおもしろい。②ずいぶん前から使用されていないであろう、かなり旧式の自販機。放置され忘れ去られたがゆえに街の一部になつたモノ。記憶されない歴史。③「40年近く経っているのでは」と

民俗文化財の「だいがく」(※)があるし、それを保管している生根神社には、こつま南瓜塚もある。このちがいは紀州街道とこつま街道の關係に似ているかもしれない。

紀州街道は、大坂から堺、紀州へと繋がっていく交通路の発展の「歴史」がとくによく見えた。これに対し、こつま街道は紀州街道のバイパス的な役割、あるいは近郊に住む人びとの生活道路としての役割を果たしていた(本誌173号)。玉出の環濠もまた、そのような、人びとの生活の用に供した、どちらかというところのインフラだった、そう考えてみればどうだろう。

もう少し言い直してみる。人はみなそれぞれに歴史(人生)を持っていて、それぞれの街や町、村にも歴史はある。このことは疑いようもない。しかし、そのすべ



てが社会に共有されるべき「歴史」として記憶されていくのではない。生活の軌跡ではあるが、人びとの記憶に留められることのない歴史。私たちが現に今、生きている生活のかたちの多くは、そんな歴史である。

この特集も含め、まちの歴史散策は、ともすれば、街の古さ、「歴史」を追い求めがちである。「少しでも歴史を感じさせる古いものはないか」と物色する自分がいることに気づかされる。そして、探し求める古さとの出会いがなければ「何もなかった」と肩を落とす。しかし、何もなかったわけではない。今も目の前で人びとの

生活はその軌跡を残しているのである。自販機やマンションの玄関がそうであるように。ただ、その軌跡を「歴史」として認識していないに過ぎない。玉出の環濠もそのような記憶されない歴史のひとつだったのかもしれない。

東西にわずか3000〜5000mしか離れていない紀州街道と

こつま街道。西成の街はこの二つの街道を軸に「歴史」の表方と裏方に分かれている、そんなふうに表現すると気を悪くされる方がいるだろうか。

文責：若松司・福井龍磨

※「だいがく」は、平安時代に雨乞い祈願のために作られた、たぐさんの提灯と鈴をつけた棹のこと。生根神社の夏祭りで開催される。



思わせるほど貴族のあるマンション。当時の流行を今に伝えているとみれば、逆に興味がそそられる。玄関のデザインも、かつて新しかったものがある時から流行の色を漂泊させて醸し出す静かな古さを感じさせる。「歴史」を探そうと街中を歩いていると、歳月の経過を感じさせるモノは至るところに存在することに気づく。その古さの長さを問わなければ、ジャンクなモノですら歴史を帯びているように見えてくる。ふと、一つの疑問が浮かび上がった。私たちが探し求めている「歴史」ってなんだろう？



結局、玉出の環濠という街の「歴史」を辿れるような明確な標は見つからなかった。しかし、玉出に「歴史」がないわけではない。この地には大阪府指定有形



生根神社のだいがく



西成の地域課題や社会問題の解決に挑戦してきた株式会社ナイスは、来年で創業25周年を迎える。この世代交代の転換期に当社は何をめざすべきだろう。現場で各事業を牽引するリーダーたちに問いかけてみる。

環境福祉事業部部長
エル・チャレンジ事務局長兼理事

丸尾 亮好さん

VOL.02

エル・チャレンジ
大阪知的障害者雇用促進建物サービス事業協同組合

1999年にナイスを含む4者（現在は6者）が設立した『エル・チャレンジ』は、ビルメンテナンスを通じた就労支援など、知的障がい者の雇用促進に取り組んでいる。事業を牽引する丸尾亮好さんにお話をきいた。

Q ナイスとの出会いについて教えてください。

A もう20年以上前の話ですが、当時勤めていたビルメンテナンス（以下ビルメン）会社で、主に障がいのある方達の雇用や生活をサポートする仕事をしていました。その過程で、同じく知的障がい者の就労支援策を模索していたナイスの仕事を手伝うようになり、1999年のエル・チャレンジ設立にも関わることになりました。ナイスに籍を移したのはそれから数年後のことです。

Q どんな取り組みをされてきましたか？

A エル・チャレンジで最初に取り組んだのは、ある社会福祉法人での障がい者雇用を広げられる入札制度をつくることでした。働いている人が幸せになれる制度でないという意味がない、という思いがあったのです。この取り組みがきっかけとなり、2003年に大阪府で「総合評価一般競争入札制度」が導入されました。大阪府営公園に指定管理者制度が導入された2006年以降は、公園管理や社会福祉法人、病院、ホテルで



障がい者の職域を広げるために雇用のモデルをつくる仕事をしました。

Q 仕事上で大切にしていることは？

A 何をするにも、とにかく人が大事。この考えは一度も揺らいだことがありません。私は障がいのある人が幸せになるために就労支援をしています。労務管理は誰もが逃げたくなる仕事ですが、人と人との繋がりという視点で見れば一番大事な仕事です。私自身、人が好きで、人との関わりの中でこうした仕事ができる。なので、今後

もそれを大切にしていきたいですね。

Q ナイスという会社をどのように考えていますか？

A 「環境福祉事業部」の「環境」には様々な意味が込められています。例えば、公衆衛生「環境」を整えるビルメン。働ける「環境」をうみだす「仕事づくり」。「あつたらしいな」の声に応える「環境」をつくる「街づくり」。公園の事業も街づくりの拠点となる可能性に魅力を感じ、挑戦しました。そういう意味では、建物の数だけ存在する清掃業務は街づくりの一つの要です。やはり柱となるのは街であり、人なのです。街をつくっているのは人なのです。ナイスが掲げている「街づくり・人づくり・仕事づくり」というテーマは、自分にとって大切なこと。そうした仕事があったら、しなければならぬと常々思っています。

Q 今、感じている課題は何ですか？

A 現在は障がい者雇用が非常に進んでおり、就労移行支援事業所の数も右肩上がりが増えていきます。就職を目指す高等支援学校が整備され、障がい者の就職率も上がっ

ています。その一方で、職業的重度の障がい者の雇用は置き去りにされているのが現状です。我々が現在取り組んでいるのは、そうした「働きたいけど雇ってもらえない」人たちの就労支援です。

Q 今後はどのような展開を？

A 障がい者福祉の分野は制度化され、障がい者の権利はある程度保障されるようになりました。しかし、制度と現実のすきまには、未だに偏見や見過ごされがちな差別が残っています。とくに障がい者雇用については、当事者側ではなく、社会の側を変えて行かなければならない。つまり偏見や差別を無くすためには、私たち支援者こそが闘わなければならぬのです。障がいのある人が社会に出た時に、自分たちで守るのだという勇氣を持って仕事をすることが大事です。これからも、とことん知的障がいのある人の「幸せ」のために、その思いを貫くのが自分の仕事であると考えています。

取材を終えて

障がい者がこの社会の中で生きていくこ

との大変さについて、実はあまり真剣に考えたことがなかった。障がいがある人もない人も、全ての人間が幸せに暮らすことでも、今は未だ実現していない。既存の制度や価値観を変えるのは生半可なことではない。「偏見や差別を無くすためには、私たち支援者こそが闘わなければならない」という言葉の底にこれまでに過ごしてきた歳月の重みを感じた。

文責…福井龍磨・安田拓也



エル・チャレンジ

〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35 大阪市教育会館
TEL：06-6920-3521 FAX：06-6920-3522



【谷口円】昔作った「秘密結社大人」というビジネスの企画書を懐かしく見返す。「大人はもっと、おもしろい」をテーマに、童心に返れるイベントを行うもの。大・水鉄砲大会とかしたくないですか？



【田岡秀朋】軍艦島にイエローカード。九州一帯の明治期工場跡が世界遺産に登録されたが、強制労働などの負の遺産を伝える適切な措置がないと指摘された。五輪もそうやったけど、自浄能力ちゃんとしなきゃなあ。



【沖田一志】事務所のネット契約でプロバイダを乗り換え。仕事に影響が大きかったので我慢して使っていたが、あまりの遅さに耐えかねて決断。コロナで世の中のネット環境が激変したこと実感した。

些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成にたどり着いていた、或るオタクのブンブン系コラム。

『数字と政治』

緊急事態宣言が発出され、コロナ感染拡大に歯止めがかららない中、日々、マスコミ報道で新たに確認された感染者・死者数の数字が更新されるが、この数字に私たちは鈍感になっていないだろうか。おおさか調査委員会のデータによると、8月14日現在、大阪府のコロナ感染死者数は2742人、10万人あたり死者数は31.01人、「第4波」での在宅死数は19人/51人で共に全国最多となっている。

感染で亡くなられた方一人ひとりにも歩んできた人生や、その人を悼む家族、友人の悲しみや痛みに私たちは思いをもっと馳せるべきではないだろうか。

過去の戦争による死傷者数は日清戦争で1万4000人、第一次世界大戦で8万4000人、そして日中戦争から太平洋戦争で310万人もの犠牲者が出ている。特に太平洋戦争では1944年サイパン陥落以降から戦争終結1年半の間に9割以上の方が集中して亡くなっているという。歴史に「もしも」はないが、早く戦争を終わらせることができれば、民間人も含めこれだけの犠牲者が出ずに

すんだと歴史家は指摘している。当時の残された人たちの悲しみや政治に対する無力感、戦後76年の時代を生きる私たちは改めて犠牲者の数字の裏に潜む悲しみに想像力を働かせるべきではと思う。

一方、孤独死で亡くなられた方は大阪府内で2019年2996人に及んでいてこのコーナー（本誌171号）でも紹介されていた。1990年代初めに西成区の公営住宅でひとり暮らしの高齢者がベランダで亡くなり、一週間も経ってから腐乱死体で見られるという悲しい事件があった。亡くなられた高齢者がかつて住宅建設闘争に参加、座り込みもされた方で、この悲しい事件は西成の福祉運動の原点となったと先輩方から教えられた。誰にも看取られず孤独死される方が年々増加する中、表面化しない日々の孤独の裏に潜む悲しみに地域の「縁」と「公」

政治がどうむきあっていくか改めて問われている。

コロナ感染、孤独死と市井の人々の日常生活に苦しみや悲しみが淡々と襲ってくるが、戦争の教訓も含め数字の裏に潜む人々の悲しみに、

職業としての政治
マックス・ウェーバー著
脇 圭平訳

「どんな事業に意欲してゐる」といふ自覚のある人間がある。そういう人間は、政治の中心である。政治は、政治的行動の中心である。政治は、政治的行動の中心である。政治は、政治的行動の中心である。

岩波文庫、1980年

政治は今むきあっているのだろうか。かつて「職業としての政治」という講演でドイツの政治・社会・経済学者のマックス・ウェーバーは、死者3000万人の犠牲者が出た第一次世界大戦後の混乱の中、政治家の資質として重要な要素として「情熱」「責任感」「判断力」の3つをあげた。政治家と呼ばれる人たちの言葉が軽くなり、繰り返される不祥事や市民の生活からかけ離れた心無い発言や政治の無作為等、政治の劣化が言われて久しい。どのような「情熱」「責任感」「判断力」をもって私たちの日々の生活にむきあおうとしているのか、その政治家を選ぶのは私たち一人ひとりである。

ハンプティ・T



8月は楽しい夏まつりを開催！魚釣り、金魚すくい、スマートボールなど、たくさんのゲームで楽しみました。最後には「よくがんばりました！」とおやつをいっぱいもらって夏休みに入りました。



GOO Kids
International School

6月 3つうらたま 豊間

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から紡ぐヒントを探してみる。

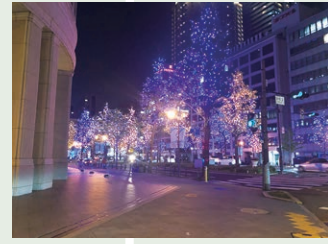
御堂筋将来ビジョン

行きつけのうどん屋がテナントビルの建て替えて閉店する。「御堂筋計画ですわ。」店主が教えてくれた。2025年の大阪万博誘致に向けて、大阪のメイン道である御堂筋一帯が大きく変わるそう。

簡単に言えば、側道を含む車道すべてを段階的に歩道（フルモール）に変えてしまおう。今後20〜30年で周辺都市とのリニア新幹線や関西の空港の一体運用などのインフラ整備が進むことを見越している。現在でも業務や商業が集積する御堂筋を、車中心から人中心へ転換することで、「人・モノ・資金・企業・情報」など資源の交流をより促そうという計画。大規模な建設工事が多いわけだ。高島屋のリニューアルが印象的。まちは変わってゆく。

このご時勢そんな派手な計画大丈夫か？一時の盛り上がりにならないか、冬の御堂筋のイルミネーションを自転車で駆け抜ける楽しみがどうなるか不安は拭えないが、少し見てみたい光景でもある。何気ないまちでの会話に気づかされることも多い。

(安田拓也)



夕涼みに御堂筋のイルミネーション

[安田拓也] 自転車でスピードを出すときは、完全燃焼してリフレッシュする目的もあって走るが、行き詰ったそんな時に乗れない。疲れたときは少しハードな運動と食事で心身の回復を。

[福井龍磨] 夜、西へ行く列車に乗った。住吉から摩耶にかけて、六甲の山肌は無数の灯が点る。あんな山の上にも人の営みがあるのだ、と思った。もう盆が近い。日本では、死者たちは山に還って来る。

[西原夏美] vistlip というバンドを長年推してるんですが、そのバンドが七夕の日に14年目になったんです。学生の頃から応援していたので時が経つのが本当に早いと実感しました。

[西田吉志] 若者向け支援付きシェアハウス2号の物件がやっと確保できた。設計に改修、支援や運営の内容など、オープンに向けてやるのがたくさんですが、ひとまず物件が確保できたことにホッとした。

葉っぱの吐見

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



「蓮の葉っぱ」の巻

わたしはゆりかご。おたまじゃくしが昼寝する。ゆりかごユラユラ。わたしはステージ。陽気なカエルがカラオケ大会。舞台の上は大熱演、大興奮。わたしはまな板。ザリガニの料理教室。ハサミがこわい。ハラハラドキドキ。とつぜん大雨。そこでわたしは大きな傘だ。雨やどりのみんなはひと安心。

赤井まゆみ

蓮のこと

地中の地下茎から茎を伸ばし水面に葉を出す水生植物。漢方医学の世界では、「荷葉(カヨウ)」と呼ばれ、乾燥させたものがお茶にして飲まれていた。花言葉は「清らかな心」「神聖」。

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



(寺本良弘)

8月6日、「広島原爆の日」が76回目を迎えた。折しも今年は「平和の祭典」オリンピックが日本で開催中だった。コロナ禍で史上初の無観客開催だが、この日のために長年努力してきたアスリートたちが躍動し、素晴らしい感動を与えてくれた。戦争が最大の人権侵害であることに思いをはせるこの日、同じ国で「平和の祭典」が行われていることをどのように考えればいいのか。今も地球のどこかで戦争が起こっている。

一人一人に聞けば、ほとんどの人は戦争に反対するだろう。なのに、政治や経済、宗教など社会の仕組みの中で渦巻いた欲望が戦争を引き起こすのだろうか？ コロナ禍のもと「平和の祭典」のために来日してくれた人びとにも、広島・長崎がある日本でもう一度、戦争と平和についていっしょに考えてほしい。

い湯がげん

扶養照会をやめさせよう

コロナ禍の折、市民運動による「困窮者を生活保護制度から遠ざける不要で有害な扶養照会をやめてください」という署名運動が取り組まれた。なかなか粋なネーミングなのは東京発だからか。厚労省も案外と好意的な対応だったと聞いた。

元々、民法が血縁関係者の相互扶養義務を定めていることから、生活保護制度の運用に持ち込まれて来たのが扶養照会だ。やむを得ないとも思われがちだが、部落問題など人権侵害の常套となってきた、悪名高き身元調査を思わせる所作でしかない。ご本人は血縁者との軋轢に怯え、照会する自治体職員にとっても煩雑さこの上もな

い。結果、ご本人が泣き寝入りし、最後のセーフティネットの社会保障は作動しない。そして、国民の間には生活保護への差別が沈澱してしまふ。まさに百害あって一利なしだ。

近年になって、DVや虐待被害者の事例、20年以上血縁者と音信不通の人、70歳以上の高齢者の場合には照会をしなくても良いと、運用が緩和されてきた。当たり前に。コロナ禍で迅速さを求められることから柔軟な対応をしても良いと厚労省も言い出したようだ。いまの厚労大臣は田村憲久さんだが、ソーシャルファーム講演会長だったし、労働者協同組合法成立にも尽力された。市民運動にフル

ンドリードとも伝え聞いた。この大臣の時、コロナ禍の時こそ、諸悪の根源扶養照会を辞める時ではないか。

さて、自治体の立ち振る舞いだ。そりや国が悪いし、動かない政治が悪い。自治体は身元調査の如き所作をやむなくやらされている。だが、「もうやりたくない、やらない」と腹を括つても良いではないか。

話はもう30年も前だが、法律そのものが知的障がい者を「知恵遅れ」「精神薄弱者」と差別呼称で定義していた。それを社会運動団体の交渉の席上で、大阪府は、府行で公文書から差別呼称を変えることに通告すると宣言し、新聞記事にもなった。間もなく、法が変わった。その時宣言した担当課長は、府に意向してきていた国の若い官僚さんだった。母子家庭への児童扶養手当が18歳誕生日で打ち切られていた事案でも、改善なくば、府が代替給付すると啖呵を切つたのは府の福祉部次長で、

直前まで若原橋の今はなき総合福祉センターの館長さんだった。ボク達は「児童扶養手当を18歳誕生日で打ち切らないでください大阪連絡会議」という長い名前の運動団体を立ち上げて行動していた。社会運動にも役割があり、自治体にも自ずと我慢にも限界があるというものだ。野党だってそうだし、ホームレス支援法成立に動いたのは、当時の民主党で、発源地は西成だった。連合大阪の労働者が野宿生活者の聴き取り調査に動いた。動けば変わる時だと思ふ。大阪が動く時だとも思ふ。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯がげん」のテーマ探しに出かけます。



[若松司] 小山田圭吾の問題。いじめた者といじめられた者の時間の流れ方はちがう。そこにメディアの問題と政治の問題が絡みつく。さらに音楽の問題。彼がつくる楽曲、良いんだよな。



[山村裕太] 最近は Youtube Music で音楽を聴いています。便利で重宝していますが、昔のショップでCDを借りる→MDにやかつていう作業も結構好きだったな。歌詞カードを見ながらワクワクしていた思い出。

地域の縁を心でつなぐ

松向寺 心の時間

「崇道天皇（早良親王）の怨霊を鎮めるために僧侶に読経させる」という桓武天皇の遺言から始まった「彼岸」の法要。「仏説阿弥陀經」では人生の旅を終えて帰る場所を「極楽（彼岸）」と言い、そこは先に帰った人と再び会う世界（俱会一処）であるとも説かれています。「帰る場所」が「再び会える世界」でもあるという

教えに多くの人が救われてきました。一方「歎異抄」には「いまだ生れざる安養浄土はこひしからず」と、生まれたことのない「極楽」に心を惹かれることもないという本音も語られています。この世への執着の深さもまた真実です。

小林一茶は「かたつむりどこで死んでもわが家かな」と詠みました。わが子も妻も亡くした一茶は、わが家を背負っているかたつむりを見て、自らも「仏様」の家の中で「仏様」と共に暮らすことで悲しみを乗り越えようとしたのでしょうか。「俱会一処」は「仏様」との暮らしにおいてのみ成り立つ世界です。「彼岸」をご縁に「帰る場所」について考えてみてはいかがでしょうか？

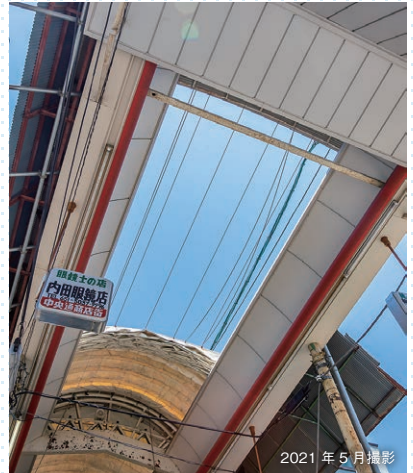
松向寺 通法

ココドコ

ココはドコ？
わたしはゆ〜とあい？
編集部が厳選した
「にしなり100景」
大公開！

天井がぼっかり開いて、青空がのぞいています。開閉式なので雨の日でも心配無用。ココがドコだかわかった人は、ゆ〜とあいの受付まで！正解者にはドリンク無料チケットをプレゼントいたします（先着10名様限り）。回答期限は9月末日、ふるってご回答ください！

【先月号の答え】 岸里と玉出の間くらい、田端公園に面した（株）くましろさんの建物のカベでした！難易度高めでしたね。



2021年5月撮影



ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび9月号(vol.175)
発行日:2021年9月1日(創刊日:2007年1月1日)
発行:株式会社ナイス
住所:大阪市西成区長橋3-6-33
電話:06-6563-1156
E-mail:info@nice.ne.jp
url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:若松司
編集:沖田一志、田岡秀朋、西田吉志、西原夏美、福井龍磨、安田拓也、山村裕太(あいうえお順)
イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>

facebook

